

# 医療人類学とバーチャル教育を活用した屋根瓦式地域医療教育(濃尾+A) 2023年度 事業報告

名古屋大学大学院 医学系研究科

総合医学教育センター 宮地純一郎 錦織宏

岐阜大学大学院医学系研究科

副医学部長・地域医療医学センター 牛越博昭

共同利用拠点 岐阜大学医学教育開発研究センター 西城卓也

東海国立大学機構

医療人類学とバーチャル教育を活用した  
屋根瓦式地域医療教育(濃尾+A)

ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業



# プロジェクトの概要

- 現在の日本の社会情勢において重要な地域医療教育について、医療人類学とバーチャル教育の2つの特徴を軸に、名古屋・岐阜両大学のディプロマ・ポリシーにみあった形で展開する
- 医療人類学の特徴
  - 「患うこと」を人びとの「生活の場」や人間の実存のなかでとらえる
  - 医学と人文社会科学を「重ね描き」するlife science（生の知）の構築と実践
  - 「地域」に関する固定観念を脱構築する実践としての参与型フィールドワーク
- バーチャル教育の特徴
  - 物理的距離を越えた教室と「地域」の接続
  - XR技術による多面的な模擬体験

# 濃尾+Aの骨子と体制



総合医学教育  
センター

地域医療  
教育学講座

医療人類学

バーチャル教育

地域医療医学  
センター

医学教育開発  
研究センター

1.特徴的な教育コンテンツの開発

2.地域とつながった学修環境の構築  
電子ポートフォリオ導入  
地域の医療機関向けセミナー

物理的距離や自己の視点を超える体験

「地域＝へき地」を超えた複眼的視野

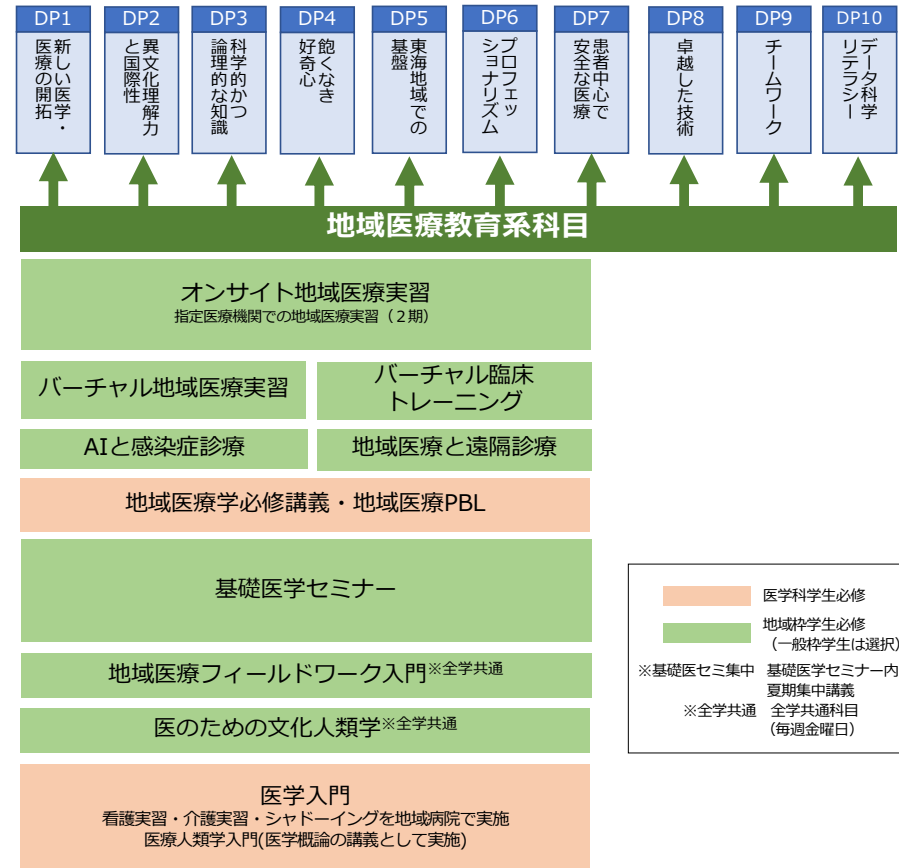
# 名古屋大学における教育取り組み報告

## カリキュラムマップ (名古屋大学) 名古屋大学

学年	内容	詳細
6年次	卒業試験 臨床実習Ⅱ	
5年次	臨床実習Ⅰ	
4年次	臨床医学系	選考付別講義 PBLチュートリアル
3年次	社会医学系 基礎医学系	基礎医学セミナー
2年次	基礎医学系	
1年次	医学入門	

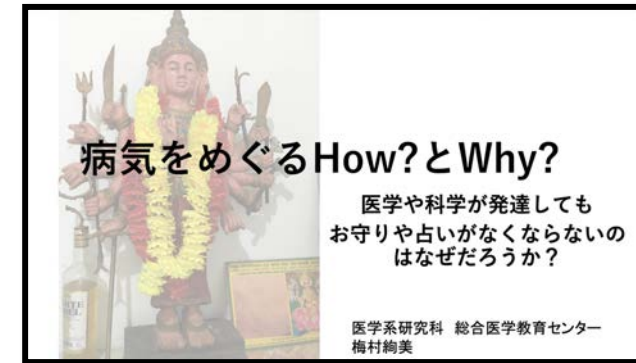
② 多職種連携教育  
へのバーチャル  
技術の導入

① 低学年向け  
医療人類学教育



医学科学生必修  
 地域枠学生必修 (一般枠学生は選択)  
 ※基礎医ゼミ集中 基礎医学セミナー内  
 ※全学共通 夏季集中講義 全学共通科目 (毎週金曜日)

# 低学年向け医療人類学教育 1 講義型授業と教材開発



「医療人類学入門」実施例

- 教養科目：「医療人類学入門」(2年生・対面・15回)
  - 健康・病気・治療・身体・死と再生・ケガレ・不浄・ケア・母性・ジェンダー・信仰等に関する世界各地の多様な事例と学生の身近な体験を往復しながら、その過程で経験する「違和感」をきっかけに自身の前提を相対化
  - 「患うこと」を人間の実存や人びとの「生活の場」のなかで検討
- オンデマンド動画シリーズ「医療人類学への誘い」
  - 医療人類学のエッセンスを各回10分程度で紹介

【vol.1 相対主義的視点から「重ね描き」の実践へ】

  - 医学生がなぜ医療人類学を学ぶのか？
  - フィールドワークと臨床医療の親和性（「顔」ー・二人称の関係）
  - 「疾病と病い」異なる現実の相対化と「重ね描き」
  - AI時代の医師へ向けて



濃尾+A 講義動画集  
ご自由にご活用ください!!  
出前講義も承ります♪

# 低学年向け医療人類学教育 2 参与型フィールドワーク



出所者の自立支援を行うスタッフによる講義

## • 教養科目：「地域医療フィールドワーク入門」（2年生向け・半期15回）

- 医療人類学者による参与型フィールドワークと対話型エスノグラフィの実践
- コミュニティが形骸化した社会において地域医療はどうとらえられるか？

地域医療についてまわる「地域＝へき地・行政区画」という前提をいったん手放し、再構築する手がかりを、地域（国籍・戸籍・住所・過去）にとらわれないフィールドで「ともに」探究する実践

- 名古屋市内で生活困窮者に対し生活医療支援をおこなう団体の活動に参加
- 他学部（看護・作業療法・法学・社会学など）学生との混成グループ（3名×3班）

## • 実習後の議論の一部（報告書を団体に寄贈する予定）

- 「住所」がないことで医療から排除・孤立させられる現実、受診までの障壁
- お金があっても家や住所をもてない現実（家族関係・保証人・過去・発達障害）
- 路上生活者と初めて話したが、「普通の人」で驚いた  
→自分ふくめ誰もが「当事者」になる潜在性を抱えているのではないか？
- 生活困窮者に「肩たたき」をしてもらう医師（支援⇄被支援関係の融解）
- 熟練のボランティアですら知らなかった当事者の過去について本人から直接語られた学生



路上生活者から話を聞く学生

# 多職種模擬訪問診療へのバーチャル教育導入パイロット

- ヘッドマウントカメラを既存の多職種連携教育の授業へ導入
  - 医・看・理学/作業療法・薬・社会福祉学部の学生の他職種模擬診療
  - ヘッドマウントカメラで各学部学生と・患者・家族役の視座を録画
  - 録画された多角的な視座に基づいて学生が議論
- 技術的課題は残るが、ユニークな気づきや議論に繋がった

ヘッドマウントカメラの装着



装着した模擬患者・多学部学生による模擬訪問診療



録画した視座からの討論



# 岐阜大学におけるバーチャル教育の取り組み報告

## カリキュラムマップ (岐阜大学)



学年	内容	詳細
6年次	卒業試験 臨床実習Ⅱ	臨床講義・地域医療
5年次	臨床実習Ⅰ	選択特別講義 大学～地域施設
4年次	臨床医学系	臨床推論・地域医療 PBLチュートリアル
3年次	社会医学系 基礎医学系	
2年次	基礎医学系	基礎配属地域医療 セミナー
1年次	医学概論 全学共通科目	初期体験実習 地域体験実習

※医学部入学を志すの岐阜県内の高校生

### ② ホログラム模擬患者を用いた臨床実習

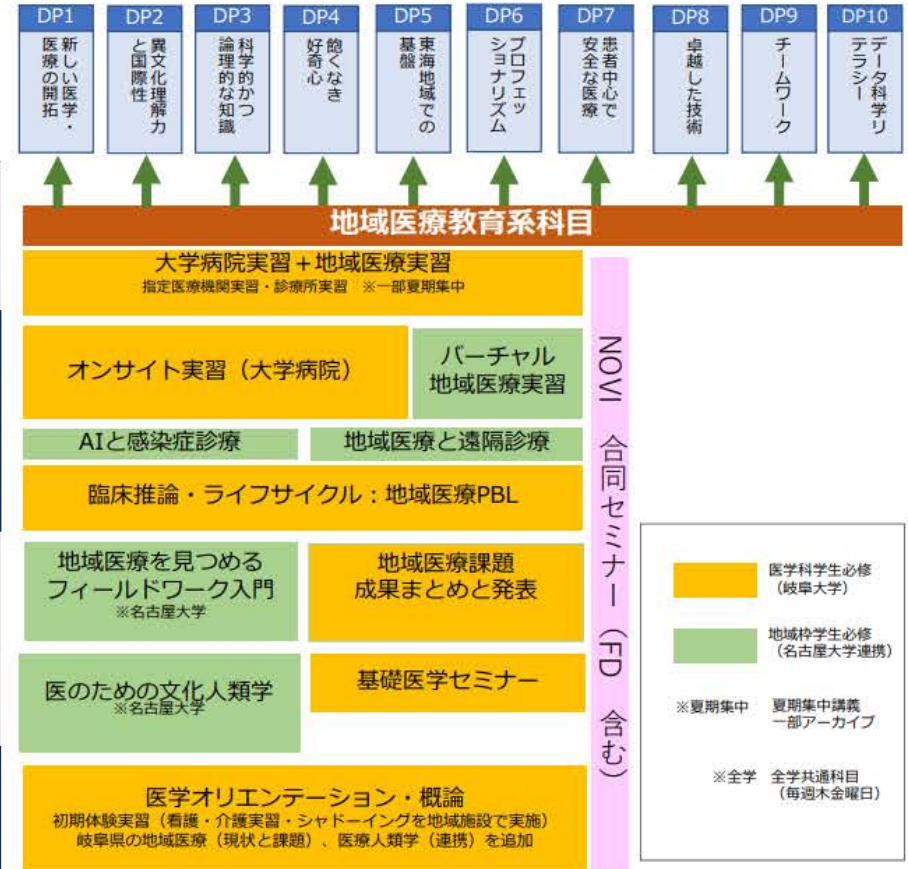
目的：「診療参加型実習」に伴い、より実体感のある臨床学習体験をMRテクノロジーを用い提供することで医療現場で必要となるような思考方法や能力を指導者の下で安全に学ぶ機会を提供する

### ① 1年次地域体験実習

目的：医療・介護・福祉の施設を訪れたことのない医学生に、現場のしくみや実情の観察を通し、将来のイメージや医療者の実際の理解を促し、将来の学習のモチベーションを刺激する

### ③ 地域医療について学ぶ会：メディカルハイスクール

目的：医療を行う上で必要な「多職種連携（チーム医療）」とは何か、医療者の姿勢や考え方、コミュニケーションについて、ワークを交えて考える





# 岐阜大学におけるバーチャル教育の取り組み報告

## ① 1年次地域体験実習： 地域からの中継授業

1年次地域体験実習では、医療・介護・福祉の施設を訪れたことのない医学生を対象に地域からの中継授業を行っている。

「よく創られた現場の動画」も完成度は高いが、中継と云えど、“ライブ”はやはり学生の関心を強く引き付ける。



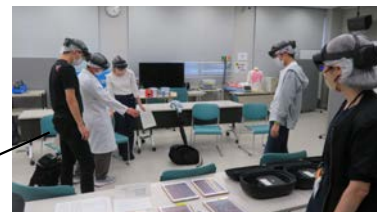
## ② ホログラム模擬患者を用いた 臨床実習(4-5年次)

ホロレンズの提供するMixed Reality (MR) テクノロジーを用い、より実体感のある臨床学習の導入をスタート

産科婦人科と泌尿器科の4年次臨床実習に11月より導入がスタート

来年度は救急災害の臨床実習でも導入予定

アナフィラキシー、大腿骨骨折のケースを用い、ホログラム模擬患者を目の前に臨床推論を学ぶ学生たち



## ③ 地域医療について学ぶ会： メディカルハイスクール

高山市にて2回実施

対象：岐阜県内で地域医療に興味を持つ高校生

\*2023年7月14日  
「SonoSimを用いたバーチャルエコー体験」  
ファシリテーター：牛越博昭・川尻宏昭

\*2023年9月14日  
「多職種連携やチーム医療に求められる医療者の姿勢や考え方コミュニケーションスキルを学ぼう」  
ファシリテーター：西城卓也・川上ちひろ



在宅医療に携わる医師・看護師・サポートスタッフがGoogle Glassを用い各視点から学ぶ動画教材を作成

# 地域の指導者向けセミナー

- 参加登録：20名（オンライン開催）
  - 地域枠医師・学生、地域で働く指導医、初期研修医、看護・医学系の大学教員、大学・地域病院の事務職員、行政職員
- 地域枠医師からの「もやもや事例」の検討会
  - 妄想性障害にて精神科通院歴のある独居高齢男性の敗血症性ショックに対応した。実施したとしても厳しい予後が見込まれるような侵襲的治療を希望する発言が患者さんがあった際にどう対応するべきか？
- 小グループ討議
- 医療人類学者による「立場をずらす」コメント
  - 現実の複数性：医師がもやもやを感じていることが、患者さんにとってのもやもやとは限らない。むしろ医師がもやもやしてくれていることは患者さんにとってはありがたいこと、かもしれない
- さまざまな職種・立場から活発な意見が出されただけでなく、医療人類学者による立場をずらした視点に参加者が息を呑む経験が生じた

第1回  
濃尾A 地域指導者Faculty Development企画



## 地域医療“もやもや”検討会！

～困難事例を医療人類学的視点で紐解く～

地域医療を実践するなかで生じた“もやもや”事例を持ち寄って、  
地域医療の仲間や医療人類学者と一緒に検討しませんか？

2023年 8月3日(木) 16:00-18:00

対象者：全国の医療関係者

学生の方歓迎！

開催形式：オンライン（Zoom）

医師以外の方歓迎！

参加費：無料

募集締め切り：7月28日（金）



### プログラム（敬称略）

- 開会の挨拶 錦織 宏（名古屋大学医学部附属 総合医学教育センター 教授）
- 目的・概要説明 宮地 純一郎（名古屋大学医学部附属 総合医学教育センター 特任講師）
- 地域医療“もやもや”検討会
  - 事例提供：山森 惇士（中部ろうさい病院 内科専攻医）  
医学的適応と本人の推定意思とのはざまで、侵襲的治療をするべきか“もやもや”した事例
  - グループ討論（約20分）
  - 討論内容の共有
  - 医療人類学的視点からのコメント：  
梅村 絢美（名古屋大学医学部附属 総合医学教育センター 特任助教）
- 全体討論
- 今後の活動紹介
- 閉会の挨拶 牛越 博昭（岐阜大学医学部附属地域医療医学センター 教授）

### グランドルール

- ①みんなにやさしく、自分にやさしく  
—非難や論破が目的ではありません。心理的にも安全第一です。
- ②Take home pointsはみんなまで  
—発表者の提示くださったもやもやポイントを踏まえて、新たな観点を一緒に探しましょう。

本FDに参加された際に収集したアンケート等の情報は研究のために使用される  
ことがあります。また、インタビューのためにお声かけすることがあります。お断  
り頂くことでの不利益は一切にございません。研究参加を希望しない場合はご連絡  
ください（名古屋大学倫理審査承認番号2022-0496）

### 申込フォーム



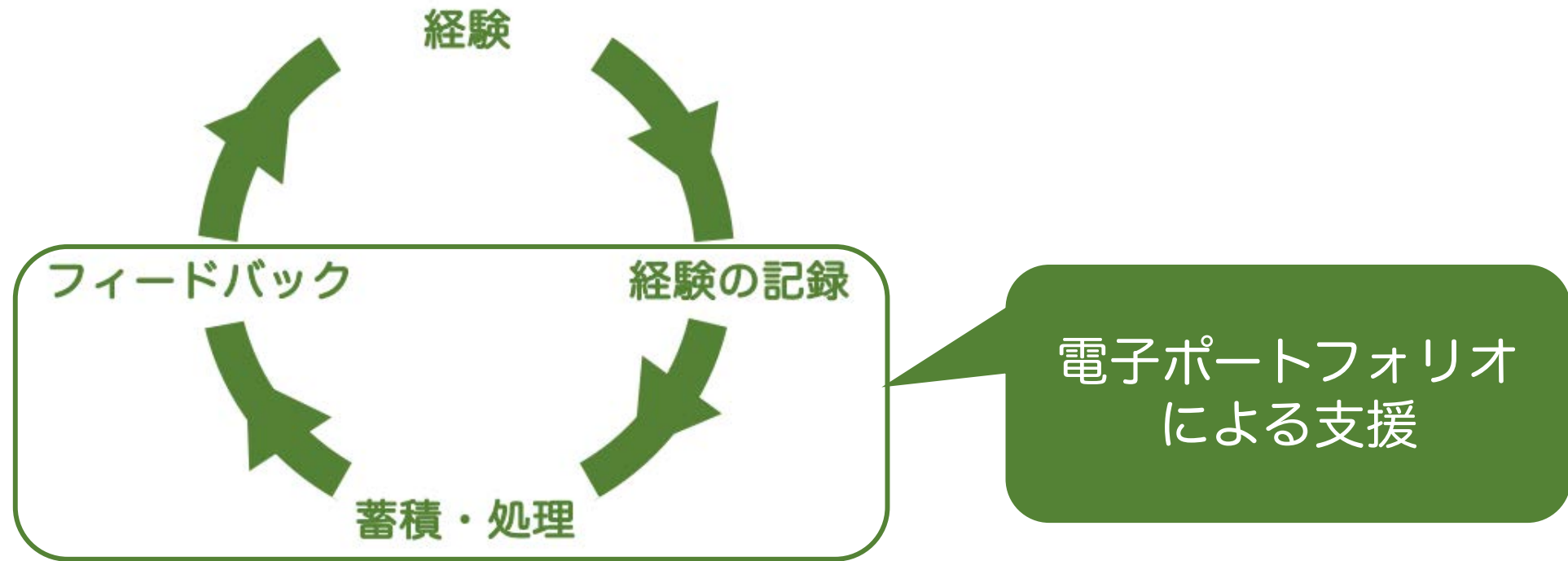
公式ウェブサイトはこちら  
<https://novi-a.med.nagoya-u.ac.jp>

@NOVI\_A2022

名古屋大学 濃尾A事務局  
連絡先：052-744-2769  
Email: novi-a@nagoya-med.net

主催：濃尾A（名古屋大学医学部附属総合医学教育センター、岐阜大学医学部 濃尾+A事業推進室）  
共催：名古屋大学地域医療教育学、岐阜大学地域医療医学センター、岐阜大学医学教育開発研究センター  
協力：愛知県、岐阜県健康福祉部医療福祉連携推進課

# 地域医療電子ポートフォリオの概略



地域医療実習における経験学習の促進

# 地域医療電子ポートフォリオの運用（原案）

## ①学生による日々の記録



学生

フィードバック



電子  
ポートフォリオ

## ②学生・実習先教員による ローテート終了時の振り返り



学生



実習先教員

## ③振り返りを踏まえた フィードバック記載



実習先教員



# トライアルの実績と今後の計画

- 2023/3-5
  - 名古屋大学医学部附属病院内でトライアル(3診療科)
- 2023/11-2024/4
  - 岐阜大学3診療科でトライアル
- 2024/1-5
  - 名古屋大学地域医療実習でトライアル

# 総括・課題・今後の計画



濃尾+A 講義動画集  
(再掲)

- 医療人類学を通じた教育
  - 世界各地の事例・学生の身近な経験・フィールドワークを通じた経験を往復しながら、多彩なテーマについて、前提の手放しと新たな捉え方の探究が可能
  - 対話や直接経験が鍵となるため、大人数への展開には障壁あり、工夫が必要
  - 今後は高学年での実習経験との結びつけも検討中
- バーチャル教育
  - 地理的・制度的制限をこえて、現場に近い経験や個人の想像力を補完する視座を提供することで、ユニークな学びの機会となる
  - バーチャル教材の維持費用、技術面の準備やトラブル対応のマンパワー確保が課題
- 学修環境構築
  - 電子ポートフォリオ：両大学の臨床実習の一部でパイロットを継続
  - 地域の指導者向けセミナー：より多くの参加者が見込めるテーマを検討中